

整形外科で研修期間中に経験すべき 代表的な症例

これらの症例は救急外来で頻繁に遭遇する可能性が高く、初期研修医としての診断・治療能力を養う上で重要です。各症例に対する理解を深めることで専門医への適切なコンサルテーションができるようになるので積極的に経験していきましょう。

外傷・骨折

成人（高齢者）の骨折	腰椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折、大腿骨頸部骨折、脛骨骨折など。手術適応や保存療法の判断が重要
小児の外傷	肘内障、若木骨折、骨端線離開、上腕骨顆上骨折など。成長線の影響を考慮した治療が必要です。
多発外傷	転落や交通事故による全身外傷。骨粗鬆症や転移性骨腫瘍を背景にした病的骨折も含まれます。

神経・脊椎

腰椎椎間板ヘルニア	腰痛や下肢痛を伴う疾患で保存療法と手術適応の判断が求められます。
腰部脊柱管狭窄症	高齢者に多く、歩行障害や間欠性跛行が特徴です。
頸椎症	上肢のしびれや麻痺を引き起こすことがあります。

関節・靭帯

膝関節の障害	前十字靭帯損傷、半月板損傷など。関節鏡手術の経験が重要です。
肩関節の障害	肩腱板損傷や肩関節周囲炎など。
人工関節置換術	股関節や膝関節の人工関節手術。高齢者のQOL向上に寄与します。

整形外科で研修期間中に経験すべき 代表的な症例

手・足の外科

手の外科疾患	腱鞘炎、手根管症候群、外傷後の機能回復など。
足関節の障害	捻挫や骨折、変形性関節症など。

その他の重要症例

骨・関節感染症	急性期の症状や治療法の理解が必要です。
骨粗鬆症	骨折予防や治療法の知識が求められます。
腫瘍性疾患	良性・悪性の骨軟部腫瘍の診断と治療。